



「はたらく」

日向市立富高小学校 校長 四角目 浩行



わたしが、将来就きたい職業を意識したのは、高校進学を前にした中学3年の時であった。父は小さいながらも建設業を営み、兄は大工になりたいと言っていた。わたしは建築士になりたいと言った。わたしが図面を書き、父が基礎を打ち、その上に兄が家を建てる。父は顔にこそださなかったが、うれしかったに違いない。

数年後…その期待をみごとに裏切り、教師となった。

何のために「はたらく」のか？自分のため？家族のため？収入を得るため？答えがはっきりとしない時期がしばらく続いた。

あるとき「はたらく」とは「はた(傍)をらく(楽)にすること」という言葉を聞いた。今まで、もやもやしていたことが、胸にすんと落ちた気がした。もちろん、自分のため、家族のためにははたらくのではあるが、自分が一生懸命に仕事することが周りの人、他者のためになっているのであれば、それ以上のことはない。

「日向の子どもはみな よのなか教室の先生に」

日向市立日向中学校 三田 明生



日向中学校の子ども達の素直さと明るさに、将来における大きな可能性を感じています。本年度、「自立し貢献できる生徒の育成」を目指し、「志を立て、心を揃え、力を合わせ、子ども達を輝かせる」をスローガンに全職員で取り組んでいます。

日向中学校では、昨年11月に、社会体験学習「14歳のよのなか挑戦」、高校入試の「模擬面接」、2月には高校生を講師とした「よのなか教室」を実施しました。どの活動も大好評で、子ども達は学校外の方との関わりから、よのなかを学ぶ貴重な機会を得ました。

キャリア教育支援センターが推進している「よのなか教室」は、学校にとって大変ありがたい取組であり、キャリア形成に大きな影響を与えています。子ども達には「よのなか教室」が当たり前の取組ではなく、日向の子ども達の未来を開こうとする大人達の熱い思いから成り立っていることを理解させ、さらに、子ども達が大人になったとき、「よのなか教室」の一員となり、次世代に思いをつなぎ、日本の社会を支えられる人を、地域の皆さんと一緒に育てていきたいと思ひます。

「キャリア教育通信」

日向商工会議所 専務理事 清水 邦彦



日向商工会議所がキャリア教育の取り組みを始めてから8年目を迎えます。国や県を始めとして、本市の「よのなか教室」や「14歳のよのなか挑戦」などのキャリア教育の事業モデルは、「日向方式」と評価され、全国各地から行政や議会、教育委員会などの視察が増えています。

去る6月24日には、日向商工会議所と宮崎大学教育学部、大学院教育学研究科で、キャリア教育の推進を目的とした連携協定を締結いたしました。

これは市内事業所、教育委員会、学校、キャリア教育支援センター、商工会議所が協働する 事業成果を研究し、キャリア教育の現場を体験しながら、今後の教員養成のための教育プログラムを作成しようとするものです。

今後は、この連携協定を契機として、これまでのキャリア教育の拡充を図り、新たなステージに挑戦する「魅力ある地域づくり」としての取組みが望まれています。

「生きる」

日向地区建設業会 会長 黒木 繁人



生きていくとはどういうことだろうか？考えてみてください。

好きで生まれたのではないかもしれませんが、しかし、あなたのご両親も自分からすすんで生まれたものではありません。私たちは決して自由に自分の意志で生まれたものではありません。

生まれた場所や時代などすべて他から既に与えられてしまっています。そこを受け入れるところから入ってください。仕方ないのです。生きていくしかありません。

しかし、生きていくには働いてお金を稼がなくてはなりません。現実です。そういう「社会」が嫌と言っている時間がないことに気づくでしょう。仕事を探そうとすると「現実」がまっています。

現実、厳しい。もし、高校を中退したら職業の選択がものすごく狭くなります。収入が少ないのも現実です。もう一回、高校卒業の資格が欲しい。大学にも行きたいと思う人が多いです。

例外があります。将棋の藤井プロなんかは世界的にも特別です。学校に行かなくても生きていく道はあります。決して楽な道ではありません。一時の感情で「学校に行くのをやめる」ことだけは避けて欲しいです。学校に行くことは、勉強とともに「他の人と触れ合う」ことにも意義がある。ルールの中で集団生活を行い大人になることに学ぶ時間です。社会で生きていく練習をしています。いっぱい練習しましょう。その練習に慣れましょう。

小・中・高校生と12年間いろんな体験をして仕事をしていながら人生を考えてください。

仕事仲間として待っています。



「おしえてよのなか先生」ビデオ教材作成を検討

全国的なコロナウィルスの影響で、すべての学校行事が自粛気味になっている中、キャリア教育支援センターでは「よのなか先生」の活動の機会を増やそうと、「おしえてよのなか先生」と題したDVDビデオ化による教材を作成中です。完成後はホームページにアップするほか、各学校に配布する等、検討中です。



令和2年度 第1回 「14歳のよのなか挑戦」 協力事務所の会開催

去る、6月19日(金)に協力事業所23名、大王谷学園初・中等部7名、東郷学園中等部2名、その他、教育委員会等関係機関を含め総勢41名の参加で、第1回会合が開催されました。

その中で、今年度はコロナに負けず「地域をあげて子供たちを育てる街」づくりをいっそう目指して行きましょう!と決意を新たにされていました。



【福島センター長による
事業説明】

【高木会長のあいさつ】



「宮崎大学教育学部・ 大学院教育学研究科・ 日向商工会議所 3者が連携協定」

6月24日、地域ぐるみでキャリア教育に取り組んでいる日向商工会議所と大学側が連携することで、互いのコンテンツやノウハウを有効に活用しながら、教員になる学生の教育プログラムを充実させ、地域で活躍する子供を育てるキャリア教育のさらなる展開を目指ための協定締結が行われました。



キャリア教育教材

『2020年度版 日向市の いろんな産業 いろんな会社 いろんな仕事』

宮崎県日向市の「日向商工会議所」(会頭 三輪 純司)、「日向市キャリア教育支援センター」(センター長 福島 重義)では、2019年に引き続きまして、日向市内の全中学校の中学二年生(14歳)を対象に、「日向市教育委員会」(教育長 今村 卓也)を通じて、子供たちの未来づくりのためのキャリア教育教材『2020年度版 日向市の いろんな産業 いろんな会社 いろんな仕事』を無料で7月3日に各中学校へ配布しました。

日向市キャリア教育支援センターが2013年より進める「子供たちの未来づくりプロジェクト」の一貫として製作されたもので、市内の中学二年生(14歳)に、日向市にある会社の事業内容や、そこで働く人たちの想いを伝えると共に、将来の進路を考える際にも役立つ内容となっています。

日向市では、2018年から始めた取り組みで、今年で3回目となり、協力企業も第一回目28社、第二回目40社から、45社へ拡大しています。

また、本教材は「日向市内の小学校、中学校、高校の図書館」でも閲覧が可能になるように配布いたします。

